

活用方針・導入/活用までのステップ



VLP取組概要

■ VLP活用のねらい

- オンライン上の仮想空間を利用した新たな居場所や学びの場を提供し、不登校支援の充実を図る。

■ 対象生徒・児童

- 不登校状態にあるあきる野市立学校の児童・生徒。

■ 運用時間

- 月曜から金曜 午前8時～午後6時

■ 対象生徒・児童

- 在籍校に「VLP利用開始届」を提出して、「VLP個人ID・パスワード」を受け取り、自宅等から参加する。



VLPの導入/活用までのステップ

- ① 4月：各種環境設定、各IDを使った動作・操作手順確認
- ② 5月～7月：教育支援室通室児童・生徒によるVLP体験、都VLPイベント参加
- ③ 9月：市内全小中学校にVLP活用方法周知、保護者用申込書類配布、運用開始
- ④ 11月：週1回、教育支援室通室児童・生徒によるVLPイベント開催

活動・取組み内容

活動・取組み内容

【導入前】

- VLP内パネルに、無料映像授業やAIお絵かきなど、ルーム内の活動が少しでも広げられるようなリンクを設置。

【導入初期】

- 5月～7月：教育支援室通室児童・生徒によるVLP内でのアバター体験、「デキタス」「みんなでプログラミング」を使った学習。
- 外部サイト「桃太郎電鉄教育版」をVLP内に設置して体験。
- 教育支援室通室児童・生徒の東京都VLP英語落語イベント参加。

【運用期】

- 9月：市内小中学校へのID配布
校長会、副校長会での周知説明、学校担当者によるVLP捜査説明会の実施。
教育支援室への通室が途切れたり、SSWが家庭訪問で繋がったりしている児童・生徒による、自宅からのVLP体験。
- 11月：外部のオンラインクイズサイト「カフト」設置
教育支援室通室児童・生徒が参加する「カフトクイズイベント」の毎週、定期開催。



成果/好影響・次年度以降の方針・利用者の声

成果/好影響

- 「デキタス」では、アニメミニ授業をきちんと観ると、問題が解きやすい様子で、デキタ's ノートも使いやすかった。
- 「みんなでプログラミング」は、簡単な問題から徐々に複雑な課題が並んでいて、児童・生徒は取り組みやすい様子だった。
- 6月から始めた「桃太郎電鉄教育版」は、教育支援センターにおいて、グループを作って、小学生と中学生とで楽しく参加できた。
- 11月から始めた「カフトクイズイベント」には、通室経験のない生徒1名が、自宅から6週連続で参加できた。「カフト」はオリジナルクイズを自由に作成し、参加者も順位を競いながら集中して参加できるので、毎回とても好評だった。

次年度以降の方針

1. 教育支援室に通室する児童・生徒に、毎朝VLPルームに入って自学自習することを習慣づけ、登室できない日も自宅からスムーズにVLPを活用できるようにしていきたい。
2. 毎日VLP内に児童・生徒数名が過ごしている状態をつくり、そこに他の不登校児童・生徒を招き入れて、VLP内での過ごし方を体験したり、通室児童・生徒と関わりをもったりできるようにしていきたい。
3. VLP内では、日常的なオンラインドリルやプログラミングの自習以外に、ミニイベントやオンラインクラブを定期的に設定しながら、児童・生徒の自主性や探究心を育てていきたい。

利用者の声



- 他の児童・生徒がいる中で利用しなければ、参加することにためらってしまう。
- VLP内で自習している様子ではなく、みんなが遊んでいる中で体験してみたい。
- カフトクイズは、順位が付くので真剣に参加でき、楽しみながら学べた。
- マインクラフトをみんなでやってみたい。



- 居場所と言っても空間があるだけでは興味が継続するとは思えないので、相談相手や指導者が、常時いてもらえる空間にしてほしい。
- ルームにたどり着くまでのクリックボタン回数を、最小限にしてほしい。
- 人数が増えると接続が切れてしまうケースもあったので、安定した接続を確保してほしい。
- 外部サイトとの連携を柔軟にして、ルーム内でオンラインで体験できることを充実してほしい。